



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：72時間の停戦で合意

7月31日、米国のケリー国務長官と国連の潘事務総長は、共同声明を発出し、イスラエルとハマースが無条件で72時間の人道的停戦に合意したと発表した。停戦は現地時間8月1日午前8時（日本時間1日午後2時）から開始される。ケリー国務長官は、停戦期間中も、イスラエル軍によるトンネル破壊は継続されると述べた。イスラエルのネタニヤフ首相は、同合意発表前の時点で、停戦の有無にかかわらず、ガザの地下トンネルの破壊は継続すると述べていた。ハマース側は、イスラエル側が停戦を遵守する限り、自分たちも攻撃を控えると発表した。

停戦と平行して、カイロでイスラエルとパレスチナの協議が開始される。パレスチナ代表団は、31日にカイロに到着している。パレスチナ代表団は、パレスチナ自治政府、ハマース、イスラーム聖戦機構のメンバーで構成される。エジプト側の報道では、ハマースは単独での交渉参加を希望したが、エジプト政府は、同要請を拒否し、パレスチナ代表団の一部として参加することを求めた。

7月31日時点でのパレスチナ人死者は1440人前後と推定されており、2009年1月の死者数1417人を越えた。イスラエル側の死者は兵士61人、民間人3人。

評価

エジプト、米国、国連は、最初に無条件の停戦を行い、その後に長期停戦について協議することを求めてきた。その要求が、ようやく実現しつつある。ただイスラエル軍は、停戦中でも、トンネル破壊を続ける方針であり、72時間の人道的停戦が遵守されるかどうかは予断を許さない。イスラエル軍は、30数本の地下トンネルの大半をすでに破壊したようだ。イスラエル国民は、地下トンネルの存在に強い危機感を抱いており、トンネル破壊が終了すれば、安心感も高まり、イスラエル軍は犠牲を払ったが国民の期待する仕事をやり遂げたと評価するだろう。ネタニヤフ首相は、ガザ対応策について国民の支持が高い時期、かつガザの戦闘が泥沼化する前にガザから部隊を撤退させる道筋を見つけることができれば、政治的な得点はさらに高まる。一方、ハマース幹部らは、今回の戦闘で「勝利」したとの宣伝をすでに開始しており、停戦に至っても敗北ではないとの雰囲気を出しつつある。

今回の停戦交渉が過去2回の協議と違う点は、パレスチナ側代表が合同代表団になったことである。ハマースは、パレスチナ側の唯一の当事者ではなく、その一部になった。その分、パレスチナ自治政府の存在比重が強まるのであれば前向きの動きである。ガザの封鎖解除は、ハマースではなく、パレスチナ自治政府（PA）が協議すべき問題である。またガザの国境事務所の管理をPAが行うようになれば、人、資金、物資の流れをPAがコントロールできるようにな

り、統一政権としての実質的なガザ統治の足がかりになる。

(中島主席研究員)

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799